

令和5年度 第3回伊賀市民美術展覧会運営委員会概要

■日 時／ 令和6年3月29日（金） 午後6時～7時30分

■場 所／ 伊賀市役所本庁舎 4階401会議室

■出席者／ **委員**

[絵画部門] 富田儀孝委員、津田義夫委員

[写真部門] 城島正子委員、牧戸勲委員

[書部門] 稲森須美子委員（委員長）、中野佐恵子委員

事務局

〔（公財）文化都市協会〕服部参事、杉本係長、中村理事長

〔伊賀市文化振興課〕文化振興課長 西村、 寛

1 あいさつ

2. 報告事項

第19回市展「いが」審査結果等

【資料1】【資料1-2】【資料1-3】【資料2】

資料に沿って説明。

[概要]

- ・今回の展示作品数は185点。
- ・高校生の応募作品は53作品
- ・選外が出たのは写真部門のみで8作品
- ・前年度まで「無鑑査」とひとくくりにしていたが「無鑑査」「現旧運営員」「現旧審査員」と分けてキャプションをつけた。
- ・入場者数は5日で合計1,029人（ワークショップの人数も含む。）

3. 協議事項

(1) 第19回市展「いが」振り返りについて

(2) 第20回市展「いが」について

【資料3】

- ・各会場で流している講評映像は、今年度も高評価だった。
- ・高校生の作品が多い印象を受けた という意見が目立った。

委員からの意見・質問

- ・市展「いが」は高校生の出品が多く良い傾向だと思う。
- ・展示日について、午後5時～6時の時間に見に来る人が少ないのに当番は2人もいないと思う。5時終了にすることが可能か検討してみてもは。

→(事務局 文化都市協会)文化会館の開館は9時～となっているのに対し、市展「いが」の開場は10時～18時となっているため、今回は開場前から並んでいる人がいた。次年度からは、文化会館と市展「いが」の開館の時刻を揃えて9時開場、終了の時間を前倒して5時閉場としてよいと思う。

- ・審査や作品データをまとめる等業務がたくさんあるのは知っているが、搬入日から展示までの期間が長い。出品者としては作品がどうなっているか気がかりな部分があると思う。

→(事務局 文化都市協会)今の運営形態では今年度のスケジュール感でないと難しいと思う。キャプション、図録作成などがあり、会場設営をして終わりというわけではない。

- ・審査日から結果通知の発送まで何日か。部門によっては選外も出ているので結果を早く知りたいという声を聞いている。

→2日。普通郵便なのでさらに5～6日かかる。

- ・絵画部門でワイヤーフックがかかりにくい作品がいくつかあった。
- ・いこか交流作品の書道作品がかなり長い掛け軸だったので、展示が不安だった。もっと早く知れていれば余裕をもって展示できたのかも。
- ・いこか交流作品で掛け軸作品があったが、掛け軸の表装であれば出品者も手軽に出品できると感じた。大きさもあり生徒からも好評の声があった。

【資料4】

欠席委員の意見

[概要]

- ・力作が数多く出品されていたが無鑑査まで登っていく人が少ない(途中で出品をやめてしまう)人が多いように感じた。

- ・彫塑工芸部門には、多種多様な表現が存在するため、審査員・運営委員の選出が難しくなっている。

事務局へ電話等で寄せられた意見

- ・彫塑工芸部門について、自分の出品ジャンルの審査員を入れてほしい。

→彫塑工芸部門はジャンルが広く、すべての作品を評価できる審査員を見つけるのは難しい。

(3) 第20回市展「いが」運営委員の推薦について

【別表】

4月15日を締め切りとして、次年度運営委員の推薦を依頼した。

新規の方を推薦する場合は、内諾をいただいてから推薦いただくように依頼した。

4. その他

→ (事務局 伊賀市文化都市協会 中村理事長)

来年度の市展「いが」は第 20 回ということで記念年である。記念年にふさわしい市展「いが」にしたい。部門の新設とか、最高賞を市展「いが」賞ではなく市長賞にするとか、運営委員さんを増やしてみるとか。

委員

岡田文化財団賞について、この賞は高校生のような若手が受賞する賞と記憶している。だが、この前高齢の方が受賞していた気がする。選出の基準があるのか。

→ (事務局) 審査員に「財団からは受賞歴のない新人賞として、過去に上位 3 賞を取っていない人に限る」と説明し、選出いただいている。

委員

周年の記念賞というのは、第 10 回的时候はあったのか。周年記念賞を作るのはどうか。
→ (事務局) 賞によっては、安いという意見もある。20 周年ということで、賞金を上げる賞を作るか、事務局 (文化都市協会) が負担して新しく記念賞を作るかは事務局で相談する。

【終了】